鹿沼市認定

鹿沼の名匠 vol.18

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する“鹿沼の名匠”。
鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気を紹介します。

木製建具製造

有限会社　梅宮木工所

梅宮（うめみや）　信一（しんいち） さん

（玉田町）

プロフィール
昭和50年、玉田町生まれ。
高校卒業後、父親が立ち上げた梅宮木工所で修業を積む。会社を継いだ後も日々研鑽を重ね、平成14年には県内でも数少ない一級建具製作技能士を取得。職業訓練指導員として若手職人の育成にも携わるとともに、子どもたちにも、ものづくりの楽しさを伝えている。

木を削る滑らかな音が静かに響く作業場。一意専心に鉋（かんな）を掛けるのは、一級建具製作技能士の国家資格を持つ梅宮さん。鹿沼の建具業界の次代を担う若き職人です。

注文建具の製造から、寺社や酒蔵のような歴史ある建物の建具や部材の修復まで幅広く手掛けます。

繊細な美しさと使いやすさを併せ持つ梅宮さんの建具には、さまざまな技術が生かされています。中でも得意とするのは、「曲げ木」と「ほぞ継ぎ」です。

曲げ木は、木材を煮沸して少しずつ曲げ、木の柔らかな風合いを引き出して優雅さを演出します。ほぞ継ぎは、釘

ぶんげい

はがき・メールでご応募ください。
締切は毎月20日（到着分）です。
〒322-8601 今宮町1688-1
メール koho@city.kanuma.lg.jp
広報広聴係（応募部門を明記）

市民俳壇

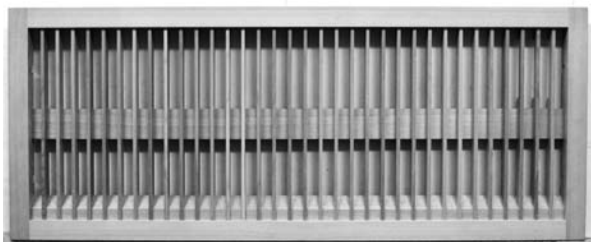
布川　武男選

早春の個室に母のわらべうた　板荷　小池矢佐伊
児の声の一際大き雪の朝　引田　斎藤　良明
行く雲の輝き増して春近し　栃窪　宮本　洋
一献に舞ひおりて来し桜かな　栄町一丁目　中荒井弘美
五郎丸と真似ておどける冬帽子　上野町　神山　忠夫
後戻りして摘みたるや蕗のとう　西茂呂三丁目　北方　清
肩に雪のせて男体凛と立つ　日吉町　新村シヅエ
桃色に姿変えつつ山笑う　文化橋町　小川　裕月

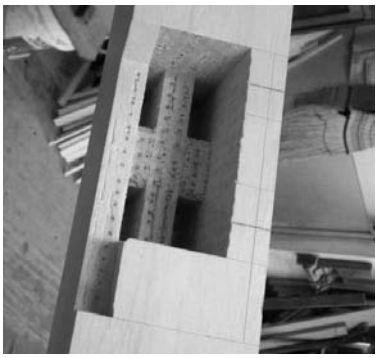
市民歌壇

森田　春雄選

山茶花（さざんか）の根本に芽吹く福寿草冬日抱きて早や春を待つ　深津　田﨑　テル
蕗のとう霜柱立つ土の中青き芽を出し感動貰う　西沢町　安達　和子
うっすらと雪をかぶりし野に山はステキな里の絵のように見ゆ　久野　川田　貴代



地元のヒノキを使った空調カバー



複雑な形状のほぞ（上）とほぞ穴（下）がぴたりと組み合う。

曲げ木を用いた障子枠

多様な道具を駆使して作り上げる。

を一切使わずに木と木をつなぐ工法で、合わせ口となる「ほぞ」と「ほぞ穴」の加工は高度な技術が必要。ときには機械を使わず、ノミとノコギリだけで正確に仕上げることが求められる「ほぞ継ぎ」は、職人の技の見せ所です。

細やかな感覚と確かな技術で生み出された梅宮さんの建具は美しくデザインされ、わずかな狂いもありません。

自らを「もともと不器用でこの仕事に向いていない」と評し、克服するために、寝る間も惜しんで修業に没頭し、現在の技術を習得しました。

家主が代替わりしても、家とともに長い年月を生き続ける建具。「木の持つ特性を最大限に生かして加工することを、常に心掛けています」と話す梅宮さん。要望以上のものを作り上げ、顧客に満足してもらえるよう日々精進を重ねます。

「鹿沼の木工業をもう一度盛り上げていきたい」。その手から生み出される、熱い思いが込められた建具は、世代を超えて人々に愛され続けます。

米ヒバの和風格子戸

日溜りに芽吹きていたり福寿草その黄金なる小さき春色　千渡　茂木キク子

待ち渡るオンシジウムの黄の華が睦月に咲き初め嬉しくなりぬ　久野　広田　文子

一日ひと日を険しき山を登るごと一生懸命に生きいる母よ　西沢町　竹沢　敏子

新年の穏しき日の出に希願う海山川の被害無き様　上日向　畠山　トミ

日光の浦見の滝に小さき虹背の岩山は雄々しく切り立つ　西沢町　阿部　芳江

市民川柳

白石　洋　選

来年も迷わず飾る雛納め　下奈良部町　小野口　博

大吉のくじ運信じ八十路坂　石橋町　滝野　里花

手刀で懸賞金も切る力士　見野　松永　勉

トラックに泥をもらった雪の道　戸張町　柿沼　道子

五輪年ヒーローたちの夢光る　睦町　高村　光夫

寒戻り悩む炬燵のしまい時　板荷　島田　ふみ

怖いもの地震原発週刊誌　上野町　高橋　正光

老化です病名一つ加えられ　上殿町　小暮　靖子